西南学院大学
図書館報

No. 67
1976年2月10日発行
福岡市西区西新6丁目
西南学院大学図書館

新能力主義の時代に処するために

学長 船越栄一

わたしの親しい友人の一人に、ある銀行の重役がいますが、これは彼に聞いた話です。彼の若い頃の経験でしょう。「銀行で一番口のうまいのは商業学校出、次は高商（専門学校）出、一番口べたなのが大学出。だが預金係にまわると一番沢山預金を集めてくるのは大学出」というのです。そういえば、彼も決して愛想のいい方ではないし、顔もいかつい。どう見ても銀行マンといえたタイプではない。だが彼は有能な銀行マンとして、異例な若さで重役になりました。

では、この秘密はどこにあるのでしょうか。彼の若い時代、戦前でも、預金集めは決して楽な仕事ではありませんでした。預金を集めにお得意さんを訪問しても、簡単に預金はくれない。そこで、よもやま話になる。経済問題、政治問題、国際問題などについて、意見を求められる。これに快刀乱麻を断つように解答を与えて相手を感服させる。そうすれば、次の機会に預金が取れることは間違いないというのです。大学で学んだ豊かな知識があったればこそ、預金集めにも成功したので、大学で学んだことは実社会では役に立たないなどというのはとんでもないことだというのが彼の持論です。

たしかに、わが国の雇用関係の特色とされてきた終身雇用制や年功序列制のシステムは、わが国の経済が高度成長から安定成長の時代にはいったこととあいまって、急速に崩壊していくと思われます。そうして、本当に実力のあるものだけが尊重される新しい能力主義の時代がすぐそこに来ているのではないでしょうか。わたしの友人の意見は別として、なんといっても、大学で学んだことは、法律にしろ、経済にしろ、経営にしろ、その基礎（グルンド）に関する事柄です。卒業後は職場において問題に即して、本を読むことが必要です。「あることについてあらゆることを」(everything about something)、問題を捉らえてこれを徹底的に掘りさげていく勉強が大事です。学問というものは地下水の流れのように深い所でお互に関連をもっているものです。このようにして関連をたどって得られた知識は本当の知識として、身についたものになります。かつて、ある大銀行に就職が決定した勉強家の学生が、「わたしは銀行にはいったら、アダム・スミスの『国富論』を読むつもりです。」といったのを聞いたときに、わたしは「それは本当に結構なことだけど、今後は物に即して本を読むことも大事だよ。」と忠告したことがありましたが、目的のない読書は、長続きしないものですし、下手すると、単なるディレッタンティズムを満足させるに留まることにもなりかねません。

最後に本の購入についての注意を申しあげましょう。「毎月の月給の5％を本代に当てろ」ということをよく聞きます。このような習慣をつけることはよいことですが、しかし、もっと大事なことは何を買うかにあるのではないでしょうか。わたしは長い間の経験から、専門書以外は買わない方針をきめています。若い人が読み捨ての週刊誌に使う金も馬鹿にならないでしょう。題目につられて新書本など買いあさっていると、いつの間にか雑本の山ができます。総合雑誌には飛びつきたいような題目がならんでいますが、しかし、総合雑誌に展開されるのは専門家の常識論で、わたしたちの期待に答えてくれる場合は至って少ないという感じがいたします。

これからはエキスパートの時代ともいわれます。社会に巣立つ諸君がそれぞれエキスパートをめざして、日々精進されるよう期待してやみません。

卒業論文の思い出

社会へ巣立っていく卒業生の皆様、おめでとうございます。皆様の中には卒論で〝生まれいづる悩み〟を味わわれた方も多いと思います。そこで卒論の思い出をお二人の方に書いて戴きました。

商学部講師　野　藤　　忠

出会いの縁というものは思いもよらないものである。何かしら、本人が意識できない遠いところから、ひと筋の糸によってあやつられているようにも思われてならない。このことは勉学の分野でもいえるかもしれない。

あの著名なドイツの物理学者で不滅の業績を残したエルンスト・アッベの経営政策を卒論のテーマとしてとりあげてから何年たつであろうか。アッベは、世界にその名を知られた光学会社ツァイスの経営者として活躍した人である。

高校時代には、大学の文科系志望であったから、物理学を履修していなかった。理科系に属する物理学や化学は、世界史や日本史あるいは政治・経済にくらべてもともと不得手であった。しかし、アッベ研究、ツァイス研究をしていくなかで、本来の目的たる経営の研究はもとより、物理学とりわけ光学の領域にも足を踏み入れることになった。しかも、大学在学中にはフランス語を選択し、ドイツ語はやっていなかった。今はドイツ語で書かれた本ばかりを読むような境遇になってしまった。なんとも皮肉なものである。どうも最初のおもわくとは違った方向を歩んでいるような気がしてならない。

ともあれ、アッベやツァイスを研究するようになったことが、生涯忘れえぬ出会いのひとつであるように思える。何をしていいか決めかねている自分に、先生よりテーマが与えられたのである。その日までアッベやツァイスについてはまったく知らなかったのである。

何も考えずに、ただひたすら提出期日を念頭に、暗中模索しながら卒論を書いていた時をひとり静かにふと思い出すことがある。あの日はもう帰りこぬ。時のみがいたずらに過ぎゆくのである。今は職業として研究する身の使命ときびしさを痛感するようになった。

（本学69期生　神戸大学博士課程修了）

76期　英文科　永　松　友　子

往復四時間の通学は、いささか忙しい。でも家庭へ戻れることは、大変な安らぎを与えてくれます。そのためか、私の卒論に対する取り組み方も割にゆとりのあるものでした。菜の花の咲く暖かい春の陽ざしの中を大学に着くと、一友人が、さっそく卒論に取り組んでいました。五・六月の、ともすれば虚無的になり易い時期から、図書館の静かな雰囲気の中で、落ち着いて学問出来たことは、学生生活最後の私にとって大変有意義だったと思います。特に学問というと、一人の闘いなのですが、友人との励まし合いの中で、暖かい人間性をも培うことが出来ました。

さほど、英語に対する才能も持ちあわせていない私が、これほどまでに心魂を傾けて卒論に取り組んだのは、そこに〝文学〟のすばらしさがあったからです。何となく選んだ『怒りの葡萄』が、深く考察するにつれて、私の理想としていた〝姿〟を明確にしてくれるものであることを発見しました。それは、心の中で漠然と私の描いていた幻影に、パッと明かりがともったようだったのです。私は嬉しくて小踊りしたくなりました。まるで子供のようなロマンチックな心持ちでした。ちよっと強い息でも吹きかければ、すぐにも倒れてしまいそうなあのコスモスが、一身に太陽を浴び、太陽を頼りに、太陽の方を向いて、高く伸びて行くように、私もなぜかその本の自然な流れの中に、ずんずん向かっているようでした。この一年間、私がそれほど寂しさを感じなかったのも、友人の支えとこの本があったからだと思うのです。

けれども、もっと大きな支えとなったのは、投薬ミスで病床に横たわっている山近元美さんの存在でした。親しかった彼女の優しさを思ったり、一緒に卒論を書けていた筈なのにと思い、何度も挫折してしまいそうになりましたが、彼女の両親がおっしゃったように、彼女は、私達の身代りとなってくれたのかもしれません。そうならば、私は彼女のたりない人生を生きる必要があります。是が非でも、強く生きねばならない。私は、彼女に感謝しなければならないくらい、私の人生を大きく変えてくれたようです。

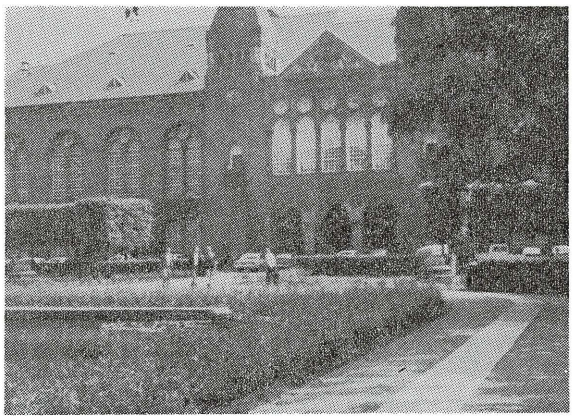
そうは思うものの、この一年間でさえ、強く生きて行くことは、本当に難しかったと思います。卒論は、結局は自分との厳しい闘いでした。生きて行くものにとって、全てが自己との闘いだとも言えます。この卒論の研究とその本そのもの、また、その過程のでき事が、弱そうに見えながらも立派に生きて行ける人間の強さを、さらに理解させてくれ、私のこれからの人生の大きな自信となったことは確かです。

コペンハーゲン大学図書館

文学部教授　清　田　正　喜

街を行く娘たちの服装が、だんだん刺激的になっていく初夏のころ、コペンハーゲン大学図書館の内部は静まりかえっていた。時たま耳に響いてくる靴音が、やけに耳ざわりでもあった。

旧市街の北のはずれ、繁華街にほど近く、古本屋が軒を並べており、果物売りの街頭商人が立ち並び、人通りの絶えることがない通りは「濃紫（こむらさき）」（Fiolstraede）である。この通りの一番地に位置する大学図書館は、「水晶」通り（Krystalgade）をはさんで、北側に特売専門の庶民的デパート Daells Varehus があり、広場を隔てて、南側は聖母教会に接している。西側は大学本館に連なり、その一角にあった旧博物館は、すでにコンピューターに占領されてしまっている。そして東側、濃紫通りの反対側には高い石塀が立ち、小さな浮彫りの石板が、その石塀の向こう側に、デンマークの国民詩人であり、デンマークがヨーロッパにも誇る学者でもあったホルベア教授（Prof. Ludvig Holberg）の官舎が、18世紀の半ばに建っていたことを告げ、若々しい緑におおわれた栗の木が、街の真ん中にあけられたこの空地に、今年もまたわがもの顔に枝を広げていた。



デンマーク王立図書館

15世紀末の、大学創設当時の建造物は、18世紀を通じてコペンハーゲン市を悩ませた戦火と火災によって破壊され、現存するのは、1861年に再建されたものである。イタリア風の大会堂をモデルにして建てられた大学図書館は、文化財に指定されていて、内部外部を問わず、一切の増改築が禁止されている。そのために、数メートルの高さに及ぶ本棚の上方に用がある時は、鮮やかなコバルト色にいろどられたフレスコ画の天井を見上げながら梯子（はしご）を登ることになるのであった。これも文化財保護が能率性に優先する国だからなのである。図書館の「図書」そのものよりも、会堂建築には珍しい鋳鉄の支柱に支えられ、ステンドグラスがはめこまれた「館」の方を自慢するお国柄なのである。

ここに言う大学図書館とは、正確には大学図書館第一部、つまり人文科学系図書館のことであり、大学図書館としては、もうひとつ第二部と呼ばれる自然科学系図書館が別の所にある。第一部には演劇図書館・新聞図書館としての機能も含まれていて、その規模は王立図書館に次いでデンマーク第二位である。蔵書数は約40万冊、製本された新聞雑誌類が約4万部ある。大学図書館としての性質上、図書の選択はもっぱら教授・学生用の参考文献に重点がおかれており、研究用文献・資料類は、いわゆるリサーチ・ライブラリーである王立図書館の方に集められている。

両図書館の間の連絡は緊密であり、どちらか一方の図書館に登録している者は、どちらの図書館からも閲覧したい本を受け取れる。本を運搬するのには、毎日一度両図書館を往復している小型車がある。しかし、小さなコペンハーゲンの旧市街のことであるから、王立図書館から大学図書館まで歩いても15分とはかからない。両方の図書館に同時に登録しておりさえすれば、すぐにも読みたい本が借り出せる。だが、この小型車に本を運んでもらうことにすると、まず2日はかかる。これは「いかにもデンマーク的」であると私は思う。

さて、両図書館とも館外貸し出しは盛んであり、発行年から百年を経ていない本ならば特別の例外を除いては、すべて自由に借り出すことができる。そのためか、大学図書館の閲覧室は特に小さく、座席が全部で40ぐらいしかない。一日の利用者数も50人から百人どまりである。よく完備した辞書や百科事典類を使って調べものをする時にも席が見つからないようなことはまずない。館外借り出しの登録者数は約7千人ほどあり、年間の貸し出し図書数は約3万冊あるという。館外借り出しも、閲覧室での利用も、それぞれカードに必要事項を記入して注文すればよい。その際はいつも暇そうにしている図書館員が懇切な指導をしてくれる。新聞図書館の部門でも要領は同じである。　（次頁へ続く）

年間約 5,500人が総数15万部にも及ぶ新聞や定期刊行物を利用している。大学図書館で利用できる新聞は、最も新しいもので6か月前のに限られており、6か月以内に発行された新聞を閲覧したい時にはコペンハーゲン市街中に点在している一般の公共図書館がそれを提供してくれる。また、直接の閲覧に耐えられない、ごく古い新聞をマイクロフイルム化する作業が、ようやく最近になって始められた。ちなみに、大学図書館に集められている内外の定期刊行物の種類は約三百種ほどである。

館外に借り出した本は、他に利用者が現われない限り、ほぼ無期限に手許においておくことができる。しかし、返却要請状が届いてからも、なお返却を延ばしていると、続いて第二回目の督促状が送られる。その際には10クローネ（約500円）の罰金、また第三回目の場合は15クローネ、さらに第四回目の最後の通告の場合には20クローネの罰金を支払うという規則がある。教授・学生の区別なく、閲覧の「自由」が十分に与えられている以上は、この程度の「責任」を利用者に要求することは当然であるという考えである。

東洋関係の本はカタログ分類票ＡＳ（Asia）のもとに集められ、そのうち日本関係の本はカタログ番号5400から5800に仕分けされている。これはあくまでも分類番号であって、図書が5千冊以上あるという意味ではない。実際にはほんの数百部、それも英・独・仏語で書かれた日本についての本、あるいは翻訳本が大半であって、日本語の本は数えるほどしか見当たらない。そのうちで目につくものとしては飯田武郷著「日本書紀通釈」（1909年刊）ぐらいしかない。日本語の本に関する限り、そのほとんどが東アジア研究所内日本語学科の図書室に集められており、学生ももっぱらここを利用している。したがって大学図書館としては特に購入する必要もないわけで、また、それだけの予算もなく、購入に当たるべき人物もいないというのが現状である。（西南学院大学文理論集16巻1号―「北欧の日本学」に筆者の報告がある）

大学の最高機関においてまで学生が発言し投票権を持ち、大学の民主的運営を自慢しているコペンハーゲン大学も、図書購入に関しては、いわゆる独裁制がしかれ、その責任はすべて個人の負うところとなっている。教授・学生側からの提案や希望はもちろん受け付けられるが、購入に関する最終的な判断は、各分野の専門家である図書館員の一存にまかされているのである。

コペンハーゲン大学は、今のところ何年先になるかはわからないが、ともかく街の南部にあるアマエー島へ移転することになっている。その時には、大学図書館もモダンで能率的なものに変身するわけで、濃紫通りのイタリア風大会堂は古い書籍ばかりを蔵して、博物館化することになるであろう。そして、古書だけが放つあの異様な芳香とともに、コバルト色の天井もゆっくりと変色していくであろう。建物は百年ごとに改修されるので、フレスコ画の天井が、初夏の青空のような鮮やかな色をこの次に再び現わすのは、86年先のことであろう。諸行流転の思いである。

★ NEWS ・ ニュース ・ お知らせ ★

＜図書館委員会＞　50. 12. 13

館内の模様がえについて。

＜閉架図書の移動＞　51. 2月中

5階の閉架図書を新書庫に移動作業します。

春休み中とはいえ利用者の皆様にはご迷惑がかかるかもしれませんがどうぞご了承下さい。

卒業後の図書館利用について

四年次生は卒業後、実社会に出てからも職務上の研究・調査などに、また自己の教養・知識向上のためにも図書館を利用することができます。次の手続きに従って今後も大いに利用してください。

利用希望者は、特別利用者規則の定めるところにより、次に掲げるものを提出しなければなりません。

① 特別利用許可願（本館備付）　1通
② 卒業証明書　1通
③ 上半身名刺型写真　1葉
④ 印　鑑
⑤ 手続料金（1カ月）　100円

上記の手続きにより特別利用者証を交付します。入館・貸出等の手続きは在学中と変りませんが、貸出2冊、期間は11日以内です。

＜人事異動＞

退　職　50. 12. 31付　水崎律子氏
配置換　51. 1. 1付　槇養一司書、語学ラボラトリーへ。

告　知　板

○春休中の開館予定

2月10日（火）から4月10日（土）までの期間、午前9時から午後5時まで（土曜日は12時まで）開架閲覧室を開き、学習室は閉室します。

(1) 2月13～17日は入学試験のため閉館。

(2) 3月15～23日は在庫調査のため、開架閲覧室を閉室、その間学習室を開きます。

○春休長期貸出

2月2日（月）から春休長期貸出実施。貸出冊数は、大学院学生15冊・別科生10冊・学部学生5冊以内。期限は、卒業予定者は2月末日まで、それ以外の人は4月22日（木）まで。

＜奉仕係より＞

後期試験も終り、学生の方はほっと一息ついておられることでしょう。試験期になると参考書探しや、勉強などの利用また貸出冊数増加のため連日超満員の盛況で、係はてんやわんやでした。

本の貸出、返却のチェックに時間を要しますので、帯出証・図書カードの記入事項は正確にお願いします。貸出図書の置き忘れ、紛失が目立っていますので、借りた本は大切に、責任をもって返却してください。

（J. N）

自　昭和49年10月　～　至　昭和50年9月

（敬称略）

アフリカ開発協会より　『国連アフリカ経済要覧 1973』　他1冊

愛知学院大学経営研究所より　『革新的消費者行動』　他1冊

愛知県勤労会館より　『労働関係文献索引 1974年版』

青森県より　『青森県統計年鑑　昭和47年』

オーストラリア大使館より　『オーストラリアハンドブック　1974』　2部

馬場克三教授より　『会計理論の基本問題』　他1冊

防衛庁より　『防衛年鑑 1975年版』　他1冊

千葉県より　『千葉県環境白書　昭和49年版』　他1冊

筑紫野市より　「筑紫野市振興計画基礎報告書」

中国電力K.K.より　『中国地方電気事業史』

大学婦人協会より　『現代の家族生活』　他2冊

台信達二教授より　『物理学史と現代物理学』

愛媛県より　『愛媛県統計年鑑　昭和50年版』

江副史子氏より　『長崎の証言 第5集』　他2冊

フィルダー、L.G. 教授より　『英文貿易商務』　他1冊

福岡銀行より　『中原嘉左右日記』　第7～9巻

福岡県より　『福岡県個人企業統計調査結果報告書　昭和48年実績』　他14冊

福岡市より　『福岡市統計書　昭和49年版』

福岡通商産業局より　『九州地域経済の産業連関分析　昭和45年』

釜山大学より　『韓国美術全集　第1.5.7.10.12.巻』

後藤泰二教授より　『経営財務論　新版』

林力氏より　『解放を問われつづけて』

土方久助教授より　『経営維持と利潤計算』

平田正敏教授より　『財務管理と数理計画法』　2部

北海道より　『北海道統計書　昭和50年』

法務省より　『法制審議会　改正刑法草案　附同説明書』　他2冊

石井記念友愛社より　『石井十次日誌』

石川重俊氏より　『イエスは結婚していたか』

イスラエル大使館より　『イスラエルという国』

糸園辰雄教授より　『日本中小商業の構造』　5部

岩津潤教授定年退職記念事業会より　『応用地学の進歩』

自動車保険料率算定会より　『自動車保険の概況 昭和48年度』

人事院より　『国家公務員給与等実態調査報告書 昭和49年1月15日現在』

神奈川県立図書館より　『逐次刊行物総合目録』

関西学院大学より　『現代の国際通貨問題』

川上太郎教授より　『会計情報とEDP監査』

霞山会より　『現代中国と歴史像』

経済企画庁より　『年次経済報告　昭和49年度』　他1冊

健康保険組合連合会より　『社会保障年鑑 1975』

憲法史研究会より　『マッカーサーと吉田茂を斬る』

建設省より　『海岸統計　昭和49年度版』

金融経済研究所より　『金融研究会講演集　5』

北九州財務局より　『北九州地方　財政経済統計年報　昭和48年度版』　他1冊

興亜火災海上保険K.K.より　『興亜火災三十年史』

国文学研究資料館より　『逐次刊行物目録　昭和48年』

古賀勝氏より　『理想社会の構造』

国民文化研究会より　『国史の地熱』

国立公文書館より　『太政類典目録上』　他2冊

国立国語研究所より　『地域社会の言語生活』　他2冊

国立国会図書館より　『国立国会図書館年報 昭和48年度』　他4冊

国際電信電話K.K.より　『国際電信電話年報 昭和48年度』

国際医学情報センターより　『学術雑誌総合目録』 自然科学欧文編　1975年版　予備版1.2.

国際社会福祉協議会日本国委員会より　『イギリス社会立法制定史』

国税庁より　『事務年報　昭和48年度』

鋼材倶楽部より　『鉄鋼二次製品年鑑　昭和49年版』

熊本国税局より　『熊本国税局統計書　昭和45年度』

黒田達也氏より　『現代九州詩史』

京都女子大学図書館より　『安藤文庫善本目録』

京都市より　『京都市の経済　1974年版』

九州管区行政監察局より　『行政機関要覧　昭和48年度』

九州歴史資料館より　『太宰府の文化財』

前園直建氏より　『宝島・日本列島』

毎日新聞社より　『タイムカプセル EXPO'70 記録書』　他1冊
増原護郎氏より　『柿本人麻呂』　他2冊
松井康秀氏より　『豊前方言手帳』
松石秀之氏より　『海洋環境のデザイン』
松下電器産業K.K.より　『人間を考える』　2部
三井銀行より　『佐藤喜一郎追悼録』　他1冊
三井信託銀行より　『三井信託銀行五十年史』
文部省より　『大学図書館実態調査結果報告 昭和47年度』　他1冊
村井順氏　『ありがとうの心』
村上寅次教授より　『フェリス女学院100年史』　他3冊
内外情勢調査会より　『雨の夜明けの物語』
中尾英俊教授より　『沖縄県の入会林野』　他1冊
日本弁護士連合会より　『改正刑法草案に対する意見書』
日本大学より　『研究業績総覧 1971年前・後期』
日本放送協会より　『NHK年鑑　1974』　他1冊
日本ＩＬＯ協会より　『主要ＩＬＯ条約・勧告集 1974年版』
日本情報処理開発センターより　『情報処理システムのネットワーク構成に関する調査研究』
日本経営者団体連盟より　『日経連欧米労働条件調査団報告』
日本生命より　『保険年鑑　昭和48年度』
日本石油K.K.より　『石油統計表　昭和48年版』　他1冊
日本鉄道より　『日本鉄道建設公団十年史』
日本輸出入銀行より　『中国の対外貿易とその展望』
西日本文化協会より　『福岡県の百年』
西日本相互銀行　『目でみるにしぎんのあゆみ 一歩一歩30年』　2部
緒方無元氏より　『郷土先賢詩書画集』
大分県より　『県政のあゆみ　昭和46～49年度』
岡田武彦教授より　『王陽明文集』
大野盛直教授より　『憲法学綱要』　2部
大阪府立貿易館より　『近畿の貿易業態統計 昭和48年』
大阪府立中之島図書館より　『大阪本屋仲間記録 第1巻』
大坪芳治氏より　『アンデス諸国の経済発展』　他22冊
立教学院より　『立教学院百年史』
老人福祉研究会より　『全国老人実態調査結果報告書　昭和44～47年』　2部
桜井欽一博士還歴記念事業会より　『桜井鉱物標本』
三康文化研究所より　『内田文庫目録』
三和実業K.K.より　『市川誠次伝』
エスビー食品K.K.より　『香辛料2』　他3冊
西南学院大学学文会　財政学研究会より　『現代の日本経済』　他23冊
専修大学より　『経営と労働の法理』　2部
社会保険庁より　『事業年報　昭和48年度』
70年代ビジョンの会より　『筑波大学』
志村治美氏より　『現物出資の研究』
白樫三四郎教授より　『コミュニケート西日本調査報告書』
証券投資信託協会より　『証券投資信託二十年史』　3部
商工組合中央金庫より　『商工組合中央金庫史』
食糧庁より　『異動人口調査結果表　昭和48米穀年度・昭和49米穀年度』
創価学会より　『中国の人間革命』　2部　他11冊
総理府統計局より　『科学技術研究調査報告 昭和48年』
杉原実教授（他）より　『基本商業簿記』　2部
田口欽二氏より　『聖書はセックスをどう考えるか』　5部
高田駒次郎教授より　『近代監査報告書論』
田辺康平教授より　『火災保険』
田代義範教授より　『経営管理の哲学』
帝人株式会社より　『帝人の歩み　9』　2部
天理図書館より　『図書分類目録　第3編』
東北大学附属図書館より　『和漢書古典分類目録』
東京外国語大学より　『スワヒリ語基礎語彙用例集』
東京商録信用組合より　『東京商銀20年史』
東レ科学振興会より　『人類とその環境』
東洋大学図書館より　『蔵書目録　第3巻』
横浜市立大学より　『京浜工業地帯公害年表』
全国地方銀行協会より　『千葉県銀行史談』
全国商品取引所連合会より　『商品取引所年報 昭和48年度』